

平成30年度学校評価(年間評価)

学校名 大分大学教育学部附属特別支援学校

| 学校教育目標  | 中期目標  | 重点目標   |
|---|---|--|
| 個人の尊厳を重んじ、児童生徒一人一人の心身の発達に応じて、小学部、中学部並びに高等部の各課程を通して、調和のある一貫した教育を行い、自己のもつ能力や可能性を最大限に伸ばし、身近生活の確立をはじめ、集団生活、社会生活、職業生活への適応性を高め、自立的、主体的な生活ができる人間の育成をめざす。 | 1 安全・危機管理意識の重要性を日常的に意識すること。<br>2 地域へ貢献できる魅力ある研究への取り組み。<br>3 確かな指導を基本にした教材等の開発についての情報発信。<br>4 小、中学部・高等部の一貫した自立・社会参加に向けての指導の充実。(キャリア教育の視点から)<br>5 特別支援教育のセンター的機能の充実。(ユニバーサルデザインと合理的配慮の視点から) | 1 子どもの活動参加への意欲を高める授業づくりの充実<br>2 地域や関係機関との連携と地域貢献 |

| 重点目標                       | 達成(成果)指標  | 重点的取組                       | 取組指標  | PL<br>SL                           | 自己評価結果 |   | 次年度の改善策  | 学校関係者評価   |   |  |  |
|----------------------------|---|-----------------------------|---|------------------------------------|--------|---|--|---|---|--|--|
|                            |   |                             |   |                                    | 評価     | 分析・考察   |  |   |   |  |  |
| 1 子どもの活動参加への意欲を高める授業づくりの充実 | ○保護者及び学校評議員への授業に関する評価アンケートで3以上の回答が100%<br><br>〈設問内容〉<br>『児童生徒は意欲的に学習活動に参加している』<br>* アンケートは4段階評価<br>3…「よい(そう思う)」<br>4…「たいへんよい(大いにそう思う)」              | 授業構想シートを活用した授業づくりと授業改善の実施   | ・授業構想チェックシートを活用した授業実践[一人一実践による、公開研究会に際しての一人一事例の作成]<br>・振り返りシートを活用した授業改善[一人一実践]                  | PR<br>研究主任<br>SR<br>研究部員           | 3      | 一人一事例の作成ができた。<br><br>研究部員と学部主事がアドバイスをしながら進めたことで、ほとんどの教員が計画通りに事例作成ができた。ただ、授業構想シートをどのように使えば良いか迷っている教員もいた。 | 授業構想チェックシートの使い方に関するアンケートを採って集約し、可能な範囲で使いやすいよう見直し改善をする。 | ・学校評議員からは授業参観において、子どもの意欲を引き出すため教材や教具が工夫されているとの高評価をいただいた。<br><br>・保護者アンケートでは、3以上の回答が95%程度であった。             |   |  |  |
|                            |   | 大分県教育庁特別支援教育課と連携した授業研究の実施   | ・特別支援教育課指導主事による授業観察と授業反省会の実施(各学部3回以上)<br>・公開研究会のアンケート調査で、「子どもの意欲的な活動を引き出すための工夫がなされていた」との回答80%以上 | PR<br>研究主任<br>SR<br>研究部員<br>教頭     |        |   | 3  |   | ・公開研も含め2~3回以上招聘し、授業改善につなげた。<br>・参加者の80%以上の回答があった。 | ・特支課指導主事の業務の関係で、授業反省会等が2回の学部もあつたが、概ね目的は達成できた。<br>・公開研を土曜開催にしたことで、近年にない多数の参加者(130人)であった。日程の中に授業者との情報交換会を設けたことで、参加者の授業理解に繋がった。 | 来年度は、意欲的な活動を引き出すための授業づくりの深化と、新学習指導要領の対応に向けて、特別支援教育課並びに大学との連携を図る。 |
|                            |   | 新任者研究授業の実施と充実               | ・H30年度、新任者全員の授業研実施(本時案レベル)<br>・教職員への研究関係のアンケートで、初任者研修が有意義であるとの回答100%                            | PR<br>研究主任<br>SR<br>研究部員           |        |   |  |   | 4   | 当初の計画通りに新任者の授業研究会が実施できた。「有意義」の回答も100%だった。  | 新任者の授業反省会を通して、新任者だけでなく全教職員がより良い授業構想や授業改善に対する引き出しが増えたと考える。        |
| 2 地域や関係機関との連携と地域貢献         | ○附特セミナーへの参加者が25名以上<br><br>○保護者への評価アンケートで3以上の回答が100%<br><br>〈設問内容〉<br>『学校・家庭・関係機関との連携がとれている』<br>* アンケートは4段階評価<br>3…「よい(そう思う)」<br>4…「たいへんよい(大いにそう思う)」 | 本校のセンター的機能を発揮した、研修機会の充実     | ・大学や関係機関から講師を招いた附特セミナーを3回以上開催<br>・附特セミナーのアンケート調査で、「有意義であった」との回答80%以上                            | PR<br>研究副主任<br>SR<br>教務主任          | 4      | 計画通りに附特セミナーの実施ができ、「有意義」の回答も80%以上であった。   |  | 延べ42名の地域の先生方の附特セミナーへの参加があった。また、第3回のセミナー(個別的教育支援計画)では特別支援学校の先生方も多数参加していた。発達障害や教育支援計画についての困りや悩みが多いことが予想される。 |   | 来年度は、発達障害に関することをはじめ新学習指導要領に関するセミナーを開催し、地域の特別支援教育担当の先生方と学び合う機会を設ける。   | ・保護者アンケートでは、3以上の回答が78%程度であった。                                    |
|                            |   | 児童生徒を中心においた、学校・家庭・関係機関の連携強化 | ・全児童生徒の、モニタリング会議への参加(1回以上)※施設が提供するサービス等に関する会議<br>・関係機関との、進路に関する情報交換会の実施(3回以上)                   | PR<br>生徒指導主事<br>SR<br>進路指導主事<br>教頭 |        | 3   | ・モニタリング会議や進路に関する情報交換会は計画通りに実施できた。                      | ・担任が事前に施設や保護者と連絡を取り合い、全児童生徒のモニタリング会議に教師が参加して、学校の指導の方向などを示すことができた。   |   | ・来年度もモニタリング会議への教師の参加率100%を目指す。<br>* 個別の指導計画の授業評価の保護者提示(あゆみ)について量が多すぎる、読みにくいなどの声が保護者から上がっている。今後、「通知表」形式に戻すことも検討したい。           |  |

|                  |   |
|------------------|---|
| 総合評価<br>次年度への展望等 | 総合的に重点目標を達成できたと考える。授業力の向上と地域貢献の観点から、来年度は「新学習指導要領への対応」と新しい取り組みである特支課との連携による「特別支援教育担当者実地研修」の円滑な運営が重要になると思われる。 |
|------------------|---|